

令和3年度第1回青少年ホーム運営委員会 会議録（要約）

1 日時

令和3年7月14日（水）19時から20時

2 場所

松本市なんなんひろば 会議室

3 出席者

内田佑香委員、高山はるみ委員、二茅真由美委員、天白英子委員、勝亦達夫委員

4 欠席者

矢吹圭介委員、田中直子委員

5 事務局

高橋生涯学習課長、中村青少年ホーム所長、竹内青少年ホーム主任

6 議事

(1) 令和2年度事業報告

(2) 令和3年度事業計画・予算について

(3) 意見交換

ア ひきこもり等の若者の支援について

イ 青少年ホームの活性化について

ウ その他

7 意見

(1) 令和2年度事業報告について

(勝亦委員) 令和2年度は新型コロナウイルス関係でイベントの中止や事業計画に変更などあったと思うが、最も苦労した点は何か、又コロナ渦で工夫したことや今後の事業の展望があればお伺いしたい。

(事務局) 令和2年度最も苦労した事業は成人式です。実施に向けて進めてきましたが、延期の末に中止になりました。工夫した点は、ヤングスクールの一部を初めてオンライン講座として開催したことでオンラインで繋がれる場を作ることができたと思います。

(2) ひきこもり等の若者の支援について

(二茅委員) 中信こども若者サポートネットを利用している引きこもり者の大半は家族からの相談がきっかけで利用するケースが多く、本人から進んで申し込んでくることは少ない。15歳や18歳の学校教育の区切りのタイミングで学校からの支援が途絶え、孤立してしまうケースが多いため、地域や家庭との連携を深め、単発でなく継続して支援してゆくことが大事だと思います。また、引きこもっていても人との繋がりは求めていることが多く、色々な情報を求めているため、様々な情報を発信してゆくことが重要です。ただし、発信していること自体を知らないことも多いので、有益な情報が

求める方に届く工夫が必要だと思います。

(高山委員) 松本駅前のヤングハローワークでは若者よりは35歳から50歳の就職相談が最も多い。また、生活費等の社会的支援や居場所の支援が必要な方も多いと感じています。

(勝亦委員) 近年の学生の傾向として、就職活動も地元の優良企業よりも大企業や知名度の高い企業に興味が行きがちで、大学の付近や松本市内の企業の情報を調べない傾向がある。昨年度は新型コロナウイルスの影響もあり、就職活動もオンラインが主流となり拍車がかかった。対面式で会って交流することが減ることは仕方ないが、オンライン化が進むことで悪循環となっていることもあると思います。

(勝亦委員) YouTubeやSNSなど、情報発信の手段も増えているが、発信する側の情報の整理や工夫も必要だと思います。

(二茅委員) LINEを使った相談も過去に行いましたが、決まった時間(1時間など)に相談が来るわけではなく、相談者の相談したいタイミングでメッセージが送信されてくるため、対応者との間に時間差が起きてしまう。一方、相談者は即答を求めてくるため、対応が難しかった。

(3) 青少年ホームの活性化について

(二茅委員) 屋外で行う部活動の一環で社会見学やボランティア活動をしています。9月にはジョブカフェ信州さんを見学し、参加者が就労体験を行う予定です。10月以降は青少年ホームのサークル体験や講座体験をさせていただき、そこで楽しさを感じてもらえれば、新しい利用者も増え、引きこもりがちな若者が外に出るきっかけにもなると思います。

(勝亦委員) 今年の松本若者会議は松本を含む3地域を対象に進めてゆきたいと考えています。街の魅力を知るための街歩きは松本の名所を中心に行い、松本市の施設を活用するほか、青少年ホームを核として検討を進めることで参加される学生にも青少年ホームの魅力を伝えられると思います。

(勝亦委員、内田委員) 若者が立ち寄りたくなる場所はイオンモールのラウンジやオシャレなカフェなどだと思います。いつでも誰でも気軽に立ち寄れる場所に青少年ホームがなってゆけば魅力も増えると思います。

(天白委員) 青少年ホームの茶道サークルとして定期的に抹茶の無料振舞い会をやってみてはどうかと思います。誰でも気軽に来れるような雰囲気を作ることで、引きこもりがちな若者の支援になると思います。